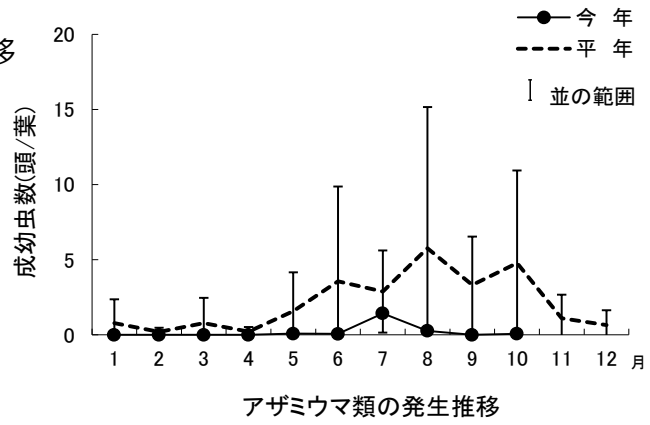
平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
10 月の発生量（現況）	並		
11 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。		

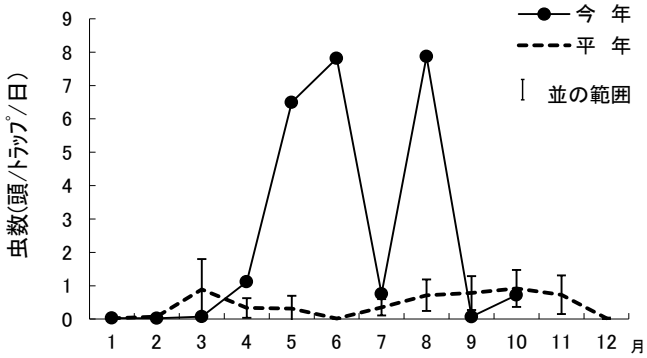
発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の推移



アザミウマ類の発生推移

トラップ調査



チャノキイロアザミウマ(トラップ)の発生推移

防除のポイント

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

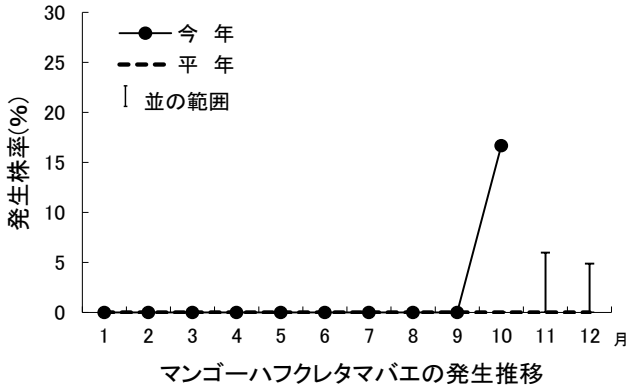
ナガエコミカンソウ

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
10 月の発生量（現況）	ややや多		
11 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

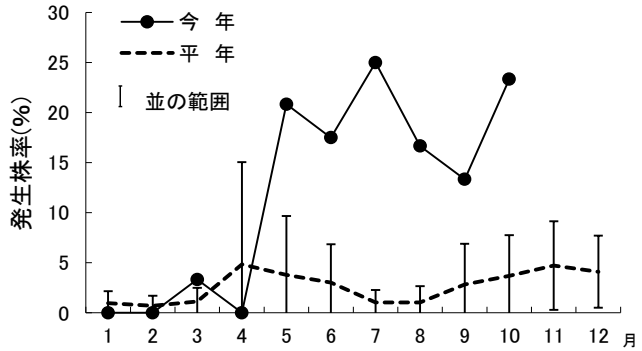
発生量の根拠（調査結果）

中央値



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

平均値



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

防除のポイント

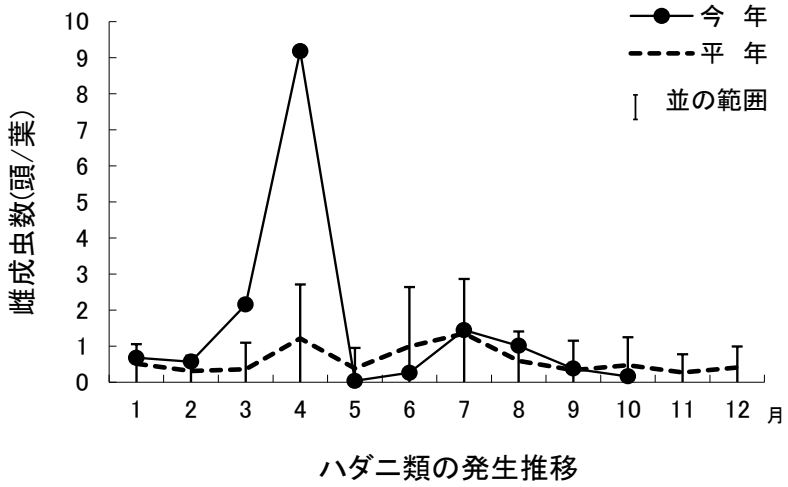
・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に処分する。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
10 月の発生量（現況）	並		
11 月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



ハダニ類の発生推移

防除のポイント

・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。